

## 平成26年度「全国学力・学習状況調査」における 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 千代 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を上回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を上回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

### ② 学力調査結果の分析

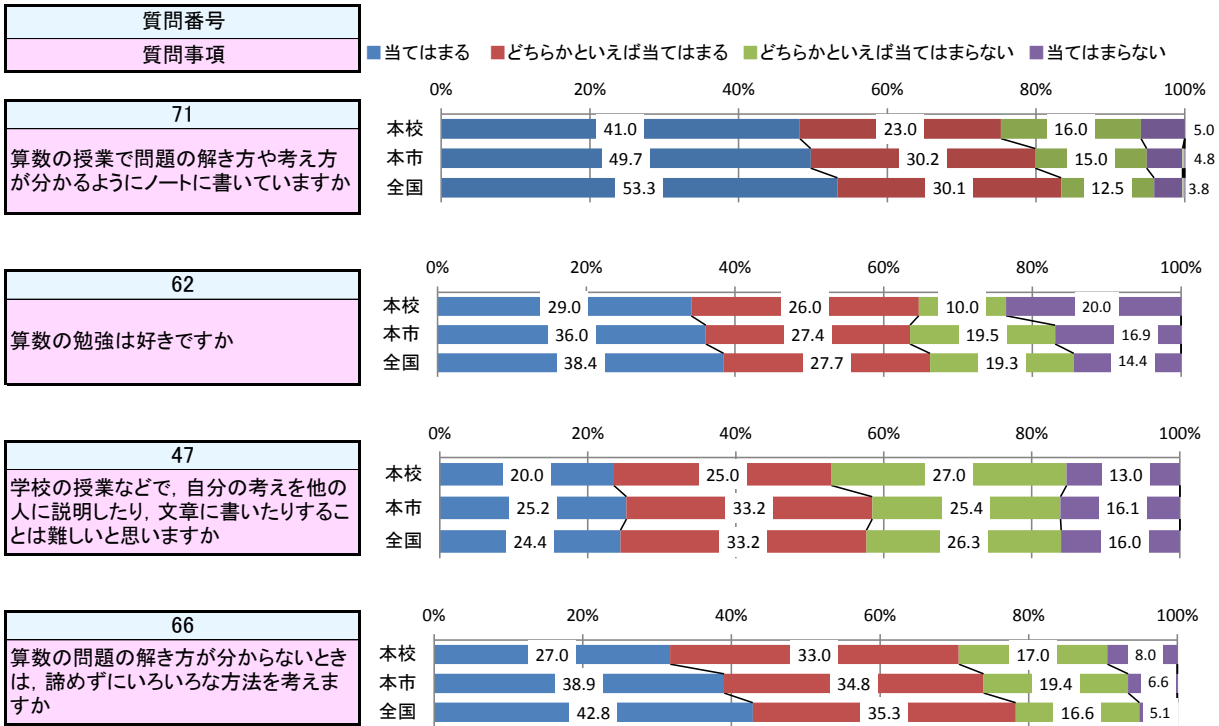
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均を上回ることができた。読む能力が身に付いており、文章読解する力がある。 ・話す・聞く力を問う問題に課題があり、話したり、聞いたりすることを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	・漢字を正しく読んだり、新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択したりする問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	・故事成語の意味と使い方を理解する問題については正解率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っていたものの昨年度より上昇していた。わかったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題に課題がある。
	よくできた問題	・課題を解決するために、目次や作品を活用して、本を効果的に読む問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	・2つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題は、無解答率が高かった。

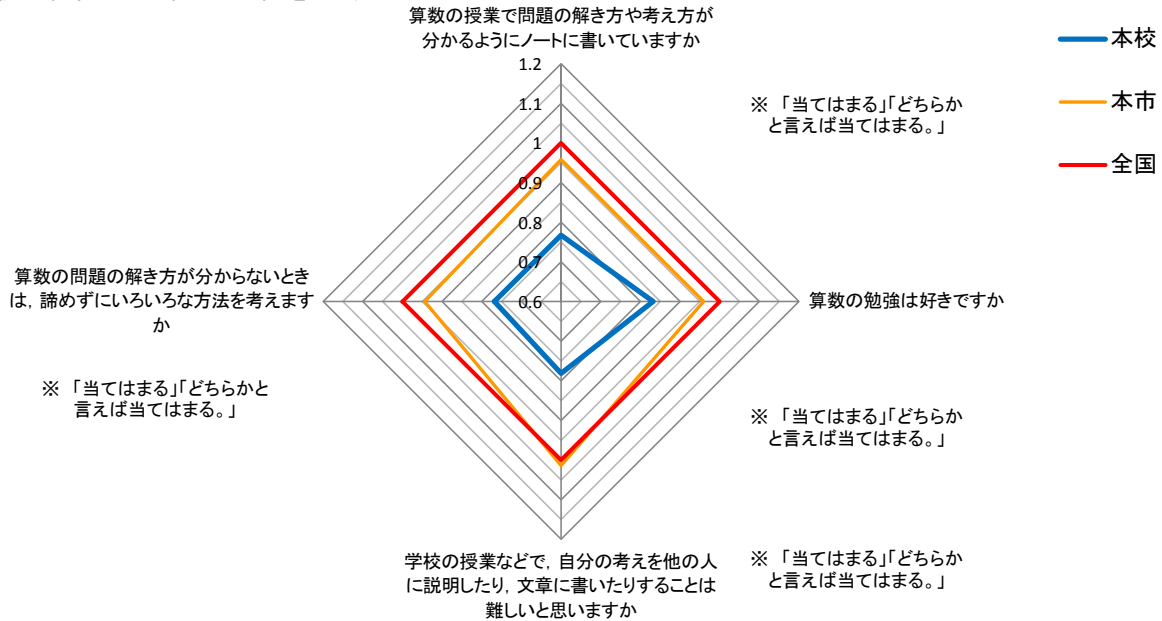
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。いずれの領域においても基礎的な数量や図形についての知識・理解や技能が身に付いている。 ・単に量あたりの大きさの求め方については、やや課題がある。
	よくできた問題	・2つの数量の関係について、単位量あたりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・作図に用いられている図形の約束や性質を理解する問題は、正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり上回ることができた。特に図形についての知識や理解する力が身に付いている。 ・量と測定や数量関係においても、数学的な考え方における力が身に付いている。
	よくできた問題	・示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰める問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する問題は、無解答率が高かった。

### ③ 学校での学習状況に関する調査結果



### ④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

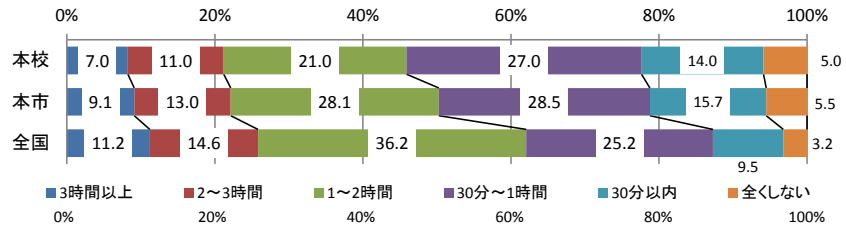
・算数科に対する興味・関心は、高まりつつある。本校の主題研究において授業の工夫・改善を図り、今後、様々な問題にであっても積極的にいろいろな方法を考え解決していこうとする意識を高めていく。

・基礎的・基本的な知識・理解や応用力等は身に付きつつあるが、考えを深めたり高めたりする上で学び合い活動や練り合い活動が必要である。自分の考えを人に説明したり文章に書いたりすることが苦手な傾向にある。そこで、事前に問題の解き方や考え方が分かるようなノートづくりについて指導することによって、自信をもって自分の意見を発表することができるようになる。このように、互いの意見を交換し合いながら、学習を進めていくことができるような授業づくりを進めていく必要がある。

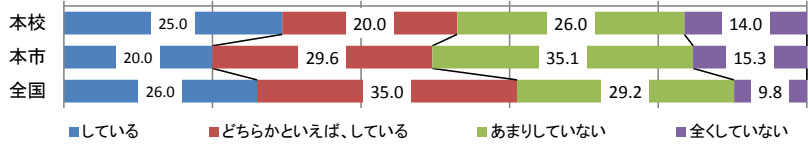
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

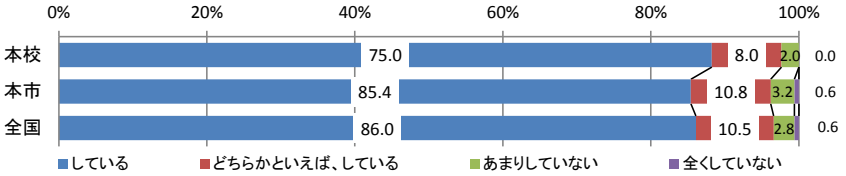
14  
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



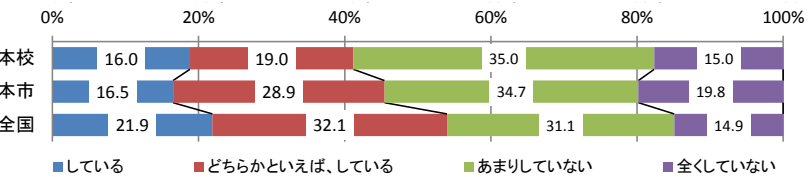
21  
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



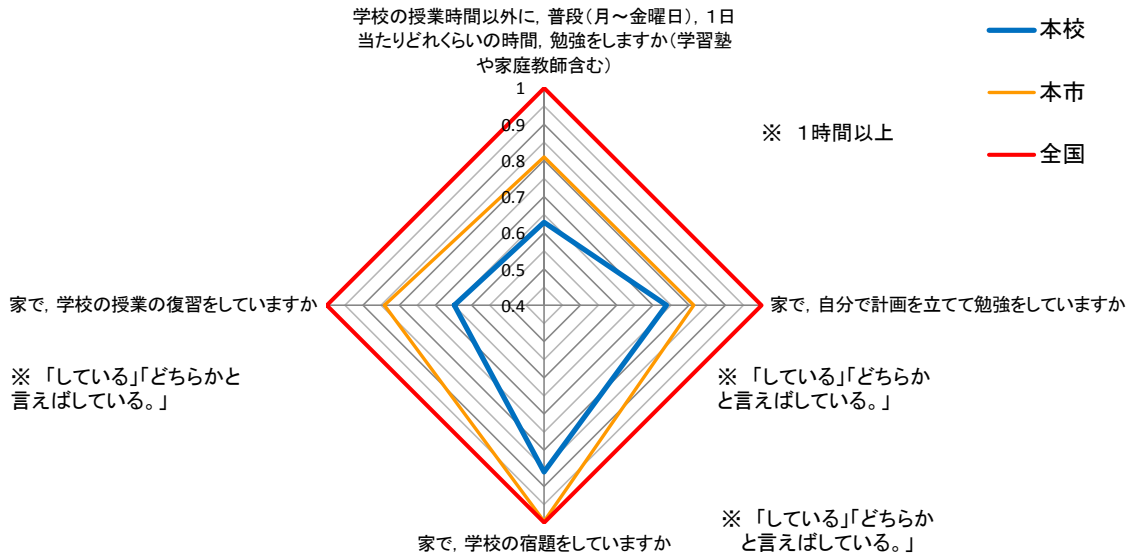
22  
家で、学校の宿題をしていますか



24  
家で、学校の授業の復習をしていますか



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

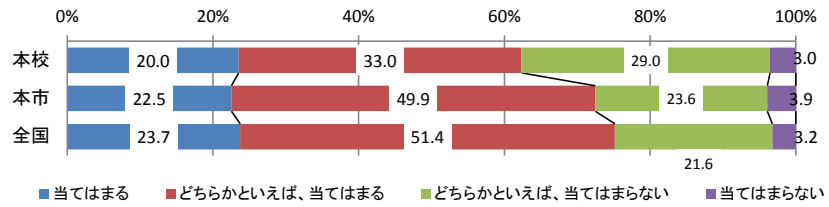


### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

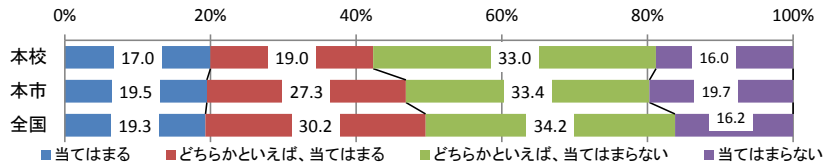
- ・学校から出された宿題等、決められた学習についてはおおむね取り組むことができているが、自発的に家で学校の授業の予習や復習等、学習に取り組むことができていない。
- ・自分で計画して勉強している児童の割合も全国や全市より差がある状況が続いており、課題である。
- ・1時間以上家庭学習をしている児童の割合が少なく、全国平均との差がだんだん開いてきており、家庭学習の絶対量が少ない。全校で時間の目安を示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

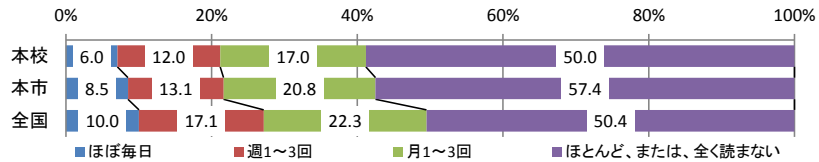
5  
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



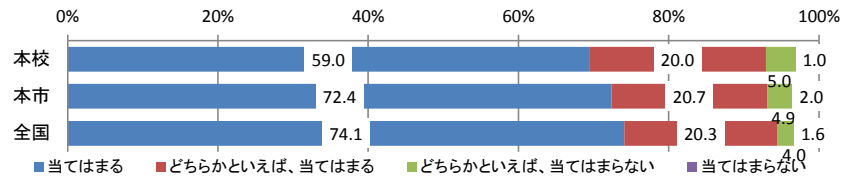
7  
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ



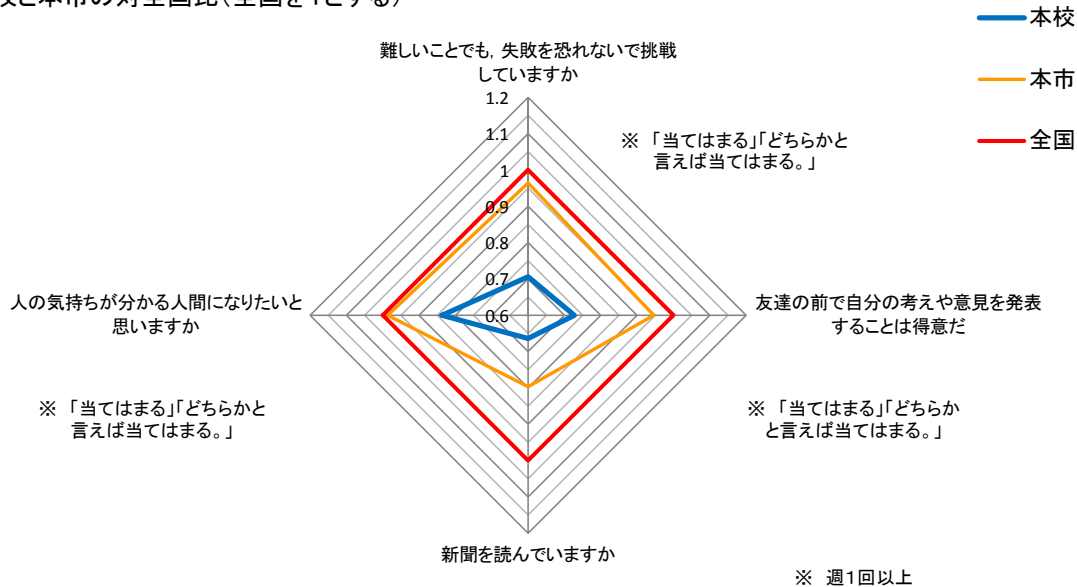
32  
新聞を読んでいますか



36  
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・本校の人権教育や特別支援教育における成果があり、人を思いやろうとする気持ちをもつ児童が多いので、引き続き取り組んでいく。  
 ・新聞やニュース等社会への興味がやや薄い。  
 ・友だちの前で自分の意見を発表したり、失敗を恐れず物事に挑戦したりする積極的・自発的な行動が苦手である。特別活動や日々の学校生活及び学習活動等において、個々の自尊感情を高められるような手立てが必要である。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

##### ◎学力向上に関する研修会の実施

・学力向上についての本校の実態・課題の確認・今後の取組についての確認をする。

・全職員で問題を解く。(学力テスト・CRT)

##### ◎学力向上のための特設時間の実施

・朝自習(月曜…学級の課題、火曜…計算、水曜…朝読書、木曜…漢字、金曜…学級の課題)

##### ◎活用力を高めるための取組

・「活用力を高める」ワークやアシストシートを朝の学習の時間や授業・宿題等に取り入れる。

・5年生児童を対象に、学習カテットの過去問題を解く時間を設ける。(3学期)

##### ○言語活動の充実

・自分の考えや意見を図や言葉で表現できるように、ノート指導や授業づくりにおける学び合い活動を充実させる研究の取組を行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

##### ◎全国学力学習状況調査の結果と本校の課題や今後の取組についての保護者への周知

・学校便りや学校HP、保護者会等を通じて保護者へ知らせる。

##### ◎家庭学習(宿題を含む)のスタンダード化

・全クラスが宿題の内容(分量やレベル)を検討し、チェック等を行い、充実させる。

・自学ノート(4年生以上)の学習内容について再度見直しを行い、取組を徹底する。

##### ○家庭学習ハンドブックの有効利用

・活用法を提示するなどして家庭においても、計画的・自発的に学習することのできる学習習慣を身に付けることができるように、それぞれのクラスで活用し、懇談会や学校新聞、学校HP等で啓発し、保護者への協力をよびかける。